

第七講 言説と歴史学

【前回のレポート課題】 百年戦争について知っていることを記せ。

「レポートの狙いは単に百年戦争について高校世界史レベルの知識を問うことではなく、百年戦争の当事者がイギリスとフランスという国家同士の戦いと扱われていることの不思議さに気付いているのかどうかということにあった。残念ながら、一人を除いてごく当たり前のようにイギリスとフランスが王位継承を口実に百年間以上断続的に戦い、ジャンヌ・ダルクが現れることによって戦局が逆転し、カレーを除いてイギリスは大陸の領土を失った、と書いていて、これが王家間の争いであったことに気付いてはいなかった。

さらに言えば、イギリス王もフランス王も一円的な支配をしていたのかどうかについても疑問を持ってもらいたかった。大陸におけるイギリス王も、またそれに敵対するフランス王も在地の封建諸侯と人的な関係を結ぶことで勢力を保持・拡大していたのであり、決して末端に至るまで中央の王権が直接支配していたわけではなかった。

それに、イギリス王の下で戦ったイギリスの封建諸侯も大陸出身者の末裔であり、大陸に親族が居り、領地を大陸に所有している人物も居たであろう。大陸に在地の封建諸侯もフランスへの民族主義的な帰属意識はなく、それぞれの利害関係に基づいて或者はフランス王に、また或者はイギリス王に加担していた。特にブルゴーニュ公とフランス王、イギリス王の関係は微妙であり、手を組んだり反目したり、付いたり離れたりしていることに注目する必要がある。

要するに近代以前の社会での出来事をどのように観るのかという問題である。」

【本日の課題】 歴史は実体なのか、それとも表象なのか？

言語論的転回と歴史学

言語論的転回と歴史学の近似性

史料批判という方法において歴史学は言語論的転回が主張する方法と近似している←一次史料と二次史料の区分・テキストの真贋の区分

テキストを通じてテキスト自身を時代や社会の中に位置づけて解釈していくという方法も近似している

歴史学と言語論的転回との相違点

歴史家はテキストの中に事実を確定し、それに基づいて歴史を構築しようとする→テキスト事態を否定することはできない

多くの歴史家が事実と認めているから事実とするというのは一種の共同幻想論である。→ローマ帝国とキリスト教の問題

歴史学の伝統的方法論に吸収可能

テキストの相対的証言能力の限界性を認識：基準として同時代性・当事者・公文書（個人的な偏見や誤謬の排除）

解釈という工程：事実の認定・事実の否定・事実の評価・時系列の中への位置づけ

事実の否定という作業の中にテキストにおける捏造・創作・誤謬・錯覚を前提とする。そして何故そのような偽の事実が挿入されたのかを説明するという作業が伝統的な歴史学の手法にはある。

(例)

前 449 年のカリアスの平和

同時代の歴史家（ヘロドトス・トゥキュディデス・クセノフォン）によつては言及されず。

前 4 世紀の弁論家たちによつて初めて言及される。

一つの言説の存在：アテナイの支配は良かったが、スパルタの支配はギリシア人を裏切っている（前 386 年の大王の平和を批判）

骨子はペルシアをアテナイはエーゲ海から排除した。

スパルタはエーゲ海におけるペルシアの支配を手助けした。

アテナイの海上支配を再建すべし。

歴史家の多くは事実として認定

←碑文情報：アテナイ貢税表における乱れ

←ペルシアの活動に変化：活動の低下
カリアスの平和の存在を否定
←碑文情報：貢税表における乱れはない←問題の会計年度の碑文
は石碑の前面下部から背面上部に記されている
←ペルシアの活動に変化なし←サモスの反乱・レスボスの反乱に
ペルシアの介在・アテナイ側からの抗議なし

文化史（バーク）

文化史とは：基本的には歴史学の一面性に対する批判
人間活動のすべての領域を対象（石田）
日本文化の特徴は文化の連続性・新旧文化の併存・内外の文化の
総合化（石田）
言語論的転回以降、文化史は多様化。社会史や人類学、視覚文化
論や地理学、考古学と関係（バーク）
（参考）言語論的転回：言葉によって現実理解される
（ソシュール）

参考文献

石田一良『文化史学の理論と方法』同志社大学出版部、1951年。
E・H・カー（清水幾太郎訳）『歴史とは何か』岩波新書、1962年。
ジョージ・P・グーチ（林健太郎・孝子訳）『19世紀の歴史と歴史
家たち』（上・下）筑摩書房、1971・74年。
フェルディナン・ド・ソシュール（小林英夫訳）『一般言語学講義』
岩波書店、1971年。
ピーター・バーク（長谷川貴彦訳）『文化史学とは何か』法政大学出版
局、2010年。
ヘロドトス（松平千秋訳）『歴史』岩波文庫、2007年。
L・v・ランケ（山中謙二訳）『ローマ的・ゲルマン的諸民族史』
千代田書房、1948年。